

校長室だより

# 共学共高

第  
91  
号

令和8年3月3日発行

発行責任者

白梅学園高等学校長

武内 彰

## 60期生を送る～弥生祭

弥生祭とは、卒業を控えた3年生のために1・2年生、教職員とでさまざまなパフォーマンスを披露し、送別するものである。4月に行われる新入生歓迎会と同様、白梅生たちの熱い思いとパワーを感じ取ることができる行事である。

全国で上位レベルにある吹奏楽部（SGBB）による演奏の下、3年生が入場する。久しぶりに見るその表情は、みな明るい印象だ。実行委員長のHさんによる開会宣言の後、吹奏楽部の演奏が始まる。3年生はペンライトを持参して参加している生徒も多い。演奏に合わせてそれらがそれぞれの色を放つ。吹奏楽部が披露してくれる曲は、私にとっても懐かしい昭和アニメメドレーだ。いずれも歌詞がなくても歌えるものばかりである。（ひみつのアッコちゃん、魔法使いサリーなど）最後の曲では3学年の先生たちが舞台下で歌って踊り、生徒たちも大盛り上がりである。曲目は、AKB48のヘビーローテーションだ。「I want you--- I need you----・・・」のところでは生徒たちも声をそろえて歌う。この曲も私たち昭和世代が若い頃に耳にした曲だと思うが、若い生徒たちも慣れ親しんでいるのはなぜかしら。



続いて「委員会企画その1」である。実行委員の生徒たちが企画し、全校生徒で楽しむ時間だ。次の出演団体の準備が整うまでつなぐ役目も持つ。ここでの企画は「イントロ・ドン」である。曲名の最初の部分が流され、わかった生徒が答えるのだ。ほぼ1秒で多くの手が挙がるので、驚かされる。ちなみに正解者には景品も配られている。もちろん、私は1曲もわからない。

次は、演劇部の登場である。白梅荘という集合住宅に住む7人の個性豊かな住人たちと美人大家さんとの駆け引きを楽しみながら、繰り広げられるハプニングに引き込まれる。演劇部は期待通りの活躍で、観ている生徒たちも所々で声を上げている。よく考えられた脚本である。

次は、箏曲部の演奏である。いつも感心するのだが、伝統的な、あるいは古典的な曲ではなく、若い人たちに受け入れられる曲に挑戦してくれる。今回は、「水平線」と「栄光の架橋」を演奏してくれた。端正で礼儀正しく、それでいて3年生たちにエールを送る素晴らしい演奏であった。



「委員会企画その2」は、曲のサビの部分を通して、歌える人は舞台前に出てきて歌声を披露するというものだ。こちらも生徒たちの反応は早い。実行委員の生徒がタブレット端末で歌詞を見せてくれるものの、なかなか勇気がいるのではないか。教員では唯一T先生が歌っていた。もちろん、私は1曲もわからない。

続いてダンス部の演技である。冒頭に顧問のK副校長先生をはじめ、T先生とM先生が登場して生徒たちと一緒に踊っているのに驚かされる。こちらも生徒たちが歓声を上げ、ペンライトを振って、楽しんでいる。よくこれだけのダンスを覚えられるなあ、というのが率直な感想である。それと共に息が切れないのかと心配になる。ハードであることは間違いない。これも練習の賜物なのだろう。「格好いい」の一言である。



次は、書道部の登場である。いつも袴を着て凛々しい姿と、見ごたえのあるパフォーマンスを見せてくれる。大きな作品を2つ仕上げるのだが、筆で書かれたメッセージも素晴らしい。今回は「飛翔」と「彩」がメインテーマである。3年生たちも大いに勇気づけられたのではないかな。



「委員会企画その3」は、「先生クイズ」である。3学年の先生たちに関するクイズが出題され、3つの選択肢から正しいと思う番号で挙手して答えるというものである。生徒たちは私の予想以上に先生たちにことを知っているなという印象である。

続いて、合唱部の演奏である。なんと、3年生が抜けて部員は3名となったようだ。新入部員を獲得して、さらに盛り上げていってほしいものだ。しかしながら、演奏は各パートに分かれて、素敵なハーモニーを披露してくれた。曲目は「トルコ行進曲」と「美女と野獣」の2曲である。トルコ行進曲が合唱でできるのかしら、と思いきや、素晴らしい出来であった。



次は、バトン部の登場である。こちらもダンス部同様に、生徒たちからの人気が高い。いたるところで歓声上がる。当たり前なことなのだが、昨年1年生だった部員たちが、2年生として部をリードしている姿を見ることができ、嬉しくもあった。空中に投げたバトンをうまくキャッチできたときには、生徒たちからの歓声も上がる。難易度の高いと思われる高

く速く回転するバトンを見事につかむ生徒もいて、さすがである。



昼食休憩をはさんで、午後の部の開始である。

最初は、軽音楽部の演奏である。おそらくこの日のための部内オーディションを通過した複数のバンドが登場してくる。どのバンドもボーカルがしっかりしている印象だ。卒業する3年生のためにオリジナルの曲を披露するバンドもあって、驚かされる。すべてのバンドの演奏が終わると、軽音楽部と全校生徒のコラボ企画として、「旅立ちの日に」をみんなで歌った。これまでにない企画であった。

「委員会企画4」は、大玉転がしである。なに？体育祭ではないのに・・・と私は戸惑う。1階フロアにいる2・3年生を2チームに分けて、ビーチボールを大きくしたような大玉を頭上で転がしてゴールまでの速さを競うというものだ。なかなか面白い企画だが、同時にゴールしたので、再試合となった。こちらも初めての企画で、良い盛り上がりを見せていた。





続いて、生徒会旗引継ぎである。3年生の前生徒会長と前副会長から2年生の生徒会長と副会長へ生徒会旗がメッセージと共に引き継がれるという、イベントだ。「厳肅な雰囲気で行いたい」という現役員のコメントのとおり、全校生徒のことを常に考えながら職責を果たす生徒会役員の存在感がしっかりと伝わる場面であった。

次は、「スライド上映」である。入学式から直近までのさまざまな行事等で撮られた写真がスクリーンに映し出される。そのたびに、生徒たちから歓声上がる。3年間の思い出を振り返る時間であった。



続いて、3学年の先生たちによるお楽しみ企画である。舞台上に複数の先生たちがやりとりをして、その合間にスクリーンに動画が流されるという企画である。忙しい中でよくここまで仕上げたものだと感心させられる。先生たちも役者として十分に通用するのではないかしら。

締めは、3年生生徒たちから3学年の学年主任・担任・副担任へのプレゼント贈呈である。各クラスの生徒たちが先生たちのことを考えて品物を選んだのである。品物はスクリーン上で紹介され、代表生徒の説明の後、クラス全員が起立して発声する。3学年の先生たちにとっては、まさしく教師冥利に尽きる瞬間なのではないだろうか。

閉会式では、実行副委員長のBさんによる閉会宣言がなされ、弥生祭も閉幕である。



(共学共高とは：本校のディプロマポリシー（育てたい生徒像）の一つで、「共に学び、共に高め合う」生徒の姿を表す)